

デンソー山岳部 2020年度 冬山合宿報告書

■山域 八ヶ岳

■日程 2020年12月26日～28日

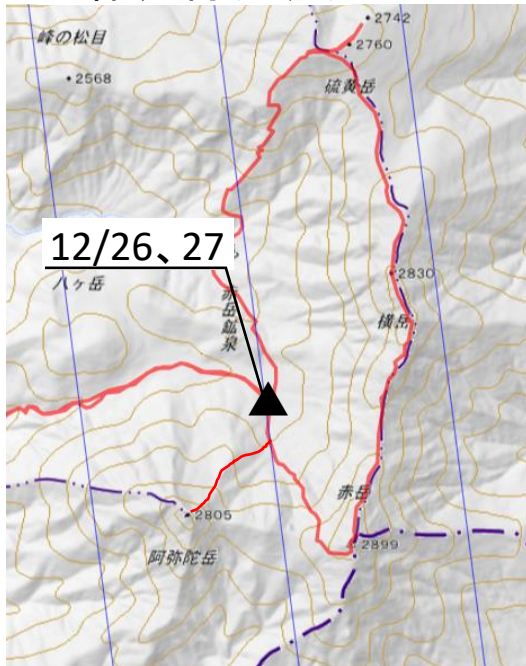
■メンバ

A隊(登攀); 鈴木芳(SL)、谷口(食料)、小堀(記録)

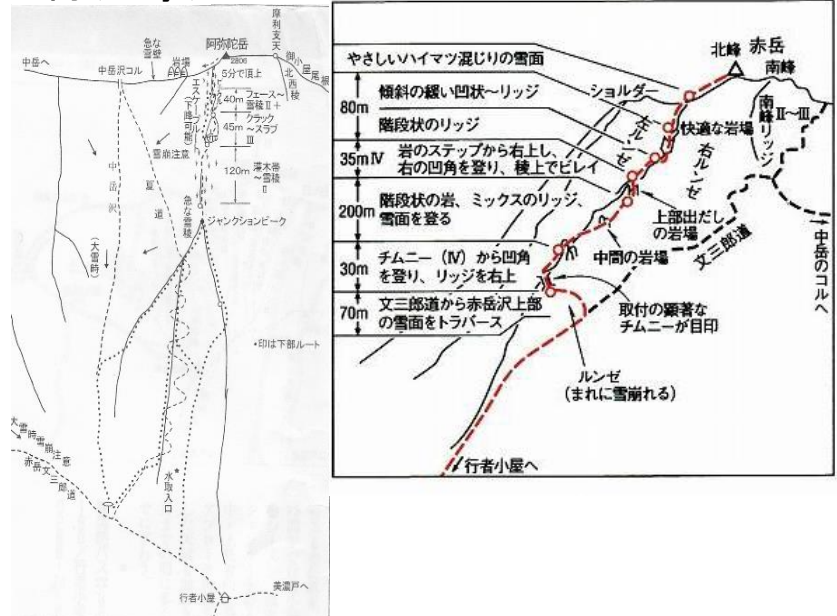
B隊(一般); 小田(CL)、石川(会計)、渡辺(装備)、福岡(記録)



全体、B隊(一般)



A隊(登攀)



- 12/26 美濃戸山荘 - 行者小屋 - 阿弥陀(A登攀・B一般) - 行者小屋
 12/27 行者小屋 - A登攀: 赤岳主稜 - 赤岳 - 行者小屋
 B一般: 赤岳 - 横岳 - 硫黄岳 - 行者小屋
 12/28 行者小屋 - 美濃戸山荘

<A隊;第1日> 12/26(土) 晴 (谷口 記)

【行動時間】2H30M(行者小屋まで)+5H

行者小屋 (13:00) → 阿弥陀岳分岐(13:15) → ジャンクションピーク(14:00) → 岩稜取付(14:40) → 阿弥陀岳山頂(16:50) → 中岳の科尔(17:20) → 阿弥陀岳分岐(17:45) → 行者小屋(18:00)

行者小屋にてテント設営後、クライミング装備を整えB隊と共に出発。トレースのない中を歩いて行くと阿弥陀岳分岐付近で降りてくる人とすれ違う。降りてきた人のトレースを参考に沢道を歩いて行く。沢は柔らかい雪がそれなりにたまっており、まれに膝ほどまで埋まる。取付へは夏道のある尾根側へ出なければならない為、B隊と別れ西側の尾根へ少し登る。すぐに夏道を見つけ、トレースのない夏道を登って行く。途中ショートカットしながらも取付部分を見つけ、景色の良いジャンクションピークまで出る。雲はあるものの赤岳、横岳、富士山が見えた。そこからしばらくハイマツのある尾根道を歩いていくと科尔にB隊の3人が並んで手を振っているのを見つける。朝には山頂までどちらが早く着くかと話していたが、やはりB隊を追い越すのは無理そうである。そして最初の岩稜に取り付き、ロープを出し登りはじめる。しかしここで登攀時の連絡のために準備した無線機にトラブル発生。おそらく寒さが原因でペアの片方の電源が切れ、交信ができなくなってしまった。仕方が無いので懐で暖めて明日回復することを祈り、コールは大声で行う。だが結果は残念ながらコールはあまり聞こえずもたついてしまった。1ピッチ目は鈴木リード、2ピッチ目は小堀リードで登った。ビレイ中は動かないので寒く、足先、指先がとにかく冷え痛くなってくるため、意識して足踏みするなど動かすしかない。またのちに谷口のスマホも懐に入れていたはずがダウンしてしまう。なかなか厳しい環境におり写真を撮るのも忘れていたが、登り切った。最後のピッチを登り切ったところで16:00を過ぎており、阿弥陀岳山頂到着時には日没を迎えてしまっていた。富士山が赤く染まり、町の明かりが徐々に付いていく景色が綺麗だと感じながら、何とか無事に帰らなければならないと再度気を引き締め、ヘッドと月明かりを頼りに下り始める。阿弥陀岳から中岳科尔までは急な坂が続くため落ち着いて降りる。中岳科尔からは雪のたまった沢道をサクサクと降りていく。なんとか無事行者小屋に到着。片付け後まもなく晩ご飯とし、疲れを癒やした。



科尔 付近にB隊を見つける



岩稜取付

<B隊;第1日> 12/26(土) 晴 (渡辺 記)

【行動記録】行動時間: 3:45

赤岳山荘駐車場(9:00) → 行者小屋着(12:00) → 行者小屋発(13:00) → 阿弥陀岳山頂(15:15) → 行者小屋(16:30)

5:00に本社駐車場を出発。諏訪南ICで高速を降りてすぐコンビニに寄ったが外は寒く山中も寒いことが予想された。しかし赤岳山荘の駐車場に着くと予想に反して暖かくアウターはもちろんミドルレイヤーも必要ないくらいであった。積雪は少なく夏道の階段が見える状態であったため駐車場から行者小屋までは冬靴のみで歩行。

行者小屋に到着後、テントを張って阿弥陀岳に登る準備をした。各自防寒対策をし、アイゼンを装着してA班とB班の2つに分かれて阿弥陀岳を目指した。B班は登攀なしの一般ルート、阿弥陀岳分岐から谷沿いに歩いて尾根を目指す。谷沿いは比較的雪が積もっていて、序盤は渡辺(今回で雪山2回目)が先頭を歩いたが雪に沈んでしまいなかなか前に進むことができず途中で小田さんに選手交替。尾根にはあまり雪が無く、夏道に沿って山頂を目指した。谷を歩いているときは尾根に雲がかかっていたが、到着した頃には風も弱まり雲は晴れて遠くの富士山がよく見えた。下山は行きと同じルートで行者小屋のテントへと戻った。

<A隊;第2日> 12/27(日) 朝昼/快晴 夜/曇り (小堀 記)

【行動記録】行動時間: 8H

行者小屋(06:40) → 阿弥陀岳分岐(06:50) → 赤岳主稜分岐(7:50) → 赤岳主稜チョックストーン取り付き(08:40) → 赤岳頂上山荘 (13:00) → 赤岳山頂 (14:00) → 行者小屋 (15:00)

少し眠い気持ちのまま準備をする。温かい朝食で体を起こし、初日に引き続いて快晴の中行動開始。1時間ほどで赤岳主稜への分岐へたどり着く。ここでB隊と別れる。取り付きまでのトラバースも少し危険なためロープを出し歩いていく。

取り付き前には先行で2パーティほど渋滞している。体が冷えないよう指先や体を動かし待機する。待機場所付近は落石が多く非常に怖かった。特に先行パーティの女性の周りに大きめの落石があったときは肝が冷えた。1時間ほど待機し、そうやさんリードで登り始める。先行パーティが苦戦していたため少し苦勞するかと思いきや難なく登っていく。

その後、鈴木さんリードの3ピッチ目は浮き石が多く少し手の置き場に苦戦しながら登っていく。終始渋滞があり、ゆっくりと登っているためどうしても体が冷えてしまう。途中から3人ともダウンを着て対処する。3ピッチ目以降は特に難しいところもなく、浮石と落石に注意しながら順調に登っていく。取り付きから4時間かかり山頂に到着。軽い食事と休憩、記念撮影を済ませ下山。15:00に行者小屋のテントへと帰った。

初めての雪山でのアルパインクライミングであったが、非常に天気もよく楽しく登ることができた。また、冬のアルパインではビレイ時の十分な防寒対策が必要であることが身にしみた。今回は天気良かったためにあまり問題にならなかったが、天気が崩れていたら防寒が足りていなかっただろう。さらに、先行パーティが多い中のクライミングでは落石への注意が大切であることが体感できた。今後の登山に活かすことができる貴重な山行であった。



<B隊;第2日> 12/27(日) 朝昼/快晴 夜/曇り(福岡 記)

【行動記録】行動時間: 7H10m

起床(05:00) → 行者小屋(06:40) → 中岳分岐(08:00) → 赤岳(08:35) → 赤岳展望荘(09:05) → 横岳(10:20) → 硫黄岳(11:25) → 赤岳鉱泉(12:45) → 行者小屋(13:50) → 就寝(20:00)

5:00起床。V8に7人は暖かく、冬山の割には快適に眠ることができた。一方で結露も酷く、寝袋の表面が今までになく凍っており、シュラフカバーの必要性を感じた。昨日吊った足に違和感を覚えつつ、準備する。

6:40行者小屋の出発。昨日と同様で快晴。また、高度3000mでの風速予報が20m/s程度と強風を予想していたが、森林限界を超えても思ったほど風はなく快適であった。登攀のA隊と別れ、これから踏襲する赤岳、横岳、硫黄岳を眺めつつ赤岳に向かう。中岳分岐では若干風が強まったが、体感で数~10m/s程度であり、予想に反して風は弱い。雪のついた富士山を遠目に望む。分岐後は雪の量も少なく、岩と雪のルートを足の置き場に注意してのぼる。

8:35赤岳山頂。雲一つなく、360°の展望をしばらく楽しむ。山頂にも雪は少ない。記念撮影のあと、この後踏襲する横岳、硫黄岳を眺めつつ、後ろ髪を惹かれながら先に進む。

9:05展望荘にて休憩。小屋の裏で風をよけながら食料と水分を補給する。休憩ののち、横岳に向かって出発。雪のつき方によってはトラバース等で注意が必要なルートと聞いていたが、すべて夏道で進むことができ、特に危険を感じるポイントはなかった。

10:20横岳山頂。快晴、弱風の中を展望を楽しみながら縦走でき、最高に気持ちよかった。雪も少なく、春山のような印象を受けながら硫黄岳へと向かった。横岳の下りも雪の量は少ないながらしっかり雪がついており、安全に下ることができた。硫黄岳の登りに備え、硫黄岳山荘にて休憩およびアイゼンを外す。大きなケルンを目印に硫黄岳へ登る。

11:25硫黄岳山頂。開けた山頂にて記念撮影、展望を楽しむ。下りでは斜度が思ったよりも厳しかったため、再度アイゼンを装着。山頂直下を降りた後は雪がほとんどついておらず、ほぼ岩トレであった。本格的な下りに入る前の分岐(赤岩の頭)にて休憩、アイゼンを外す。歩いてきた縦走路を眺めながら食料と水分を補給した後、雪に任せて快調に下る。

12:45赤岳鉱泉着。有名なアイスキャンディを眺めながら休憩。織機山岳部のメンバと遭遇。全ト他社はコロナ影響で合宿中止とのこと、早い事態の収束を願う。休憩後はゆっくりと登り返し、13:50に行者小屋着。歩いてきた道を下から改めて振り返りつつ、山とメンバに感謝。

登攀チームも夜は昨日と異なる味の鍋を楽しんだのち、就寝@20:00。



<第3日> 12/28(月) 雪 (小田 記)

【行動記録】行動時間: 1H45m

起床(05:30) → 行者小屋(07:15) → 赤岳山荘 (09:00)

5:30起床。外は雪が降っており、数cmほどの積雪があった。冷え込みはそんなに厳しくない。お湯を沸かして各人朝食を済ます。若干の降雪の中テントを素早く撤収して行者小屋を出発。下山中は降雪が続いていたが快調に下っていく。所々凍結しており若干足をとられるが、注意しながら下山し2時間弱で赤岳山荘に到着した。下山後、もみの湯(10:00営業開始)にゆっくりとつかり合宿の疲れを癒して帰途についた。

【食料】(谷口)

	12/26(土)	12/27(日)	12/28(月)
朝食	各自	各自 (お湯は沸かす)	各自 (お湯は沸かす)
昼食	各自	各自	各自
夕食	濃厚白湯鍋 (とりモモ肉+肉団子) ×の中華麺	豆乳ごま鍋 (豚バラ肉) ×のうどん	非常食
その他	おつまみ、お酒、ドリンクは各自用意		

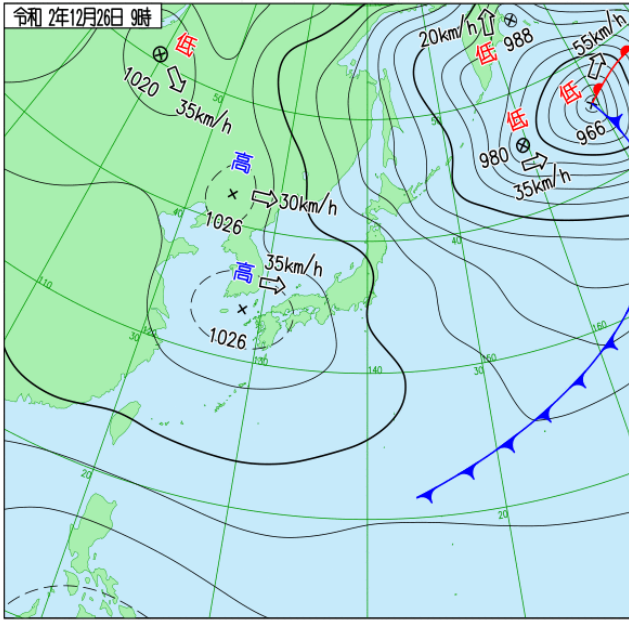
- 鍋の野菜、肉はあらかじめカットし、日毎、鍋毎に分けて用意した。
 - スープ添付のレシピを参考に、7人に対しておよそ8人前の野菜を用意。
 - 肉は各日1kgほど用意。
 - ×の麺は初日4玉、二日目3玉用意。
- バーナーはコケないように正確に設置し確認する。鍋を使う際は取手を持つ。またやけどにも注意。
- ×の麺の頃にはスープが薄くなりがち。味の調整ができるよう余分な鍋キューブや調味料を用意しておくとうい。
- 二日目朝にプラティパスが凍っており溶かすのに苦労した。テントの縁に置いていた事が原因であり、二日目夜はシュラフ同士の上に置けば凍らなかった。



【装備】(渡辺)

- ランタンはブラックダイヤモンドのLEDランタンとソーラーパフを持参した。ソーラーパフは充電がなく1日目に使用することができなかった。ソーラー発電で現地で給電することができるが、天候に依存するため山行の数日前には持ち出して事前にフル充電しておくなど工夫が必要であると感じた。
- その他の装備は過不足なく準備できたと思う

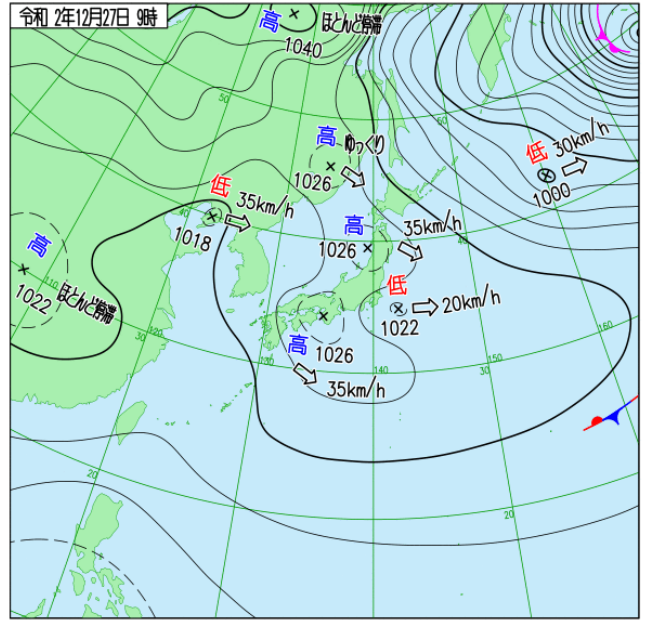
【気象】(小田)



<第1日>12/26(土)

曇りのち晴れ

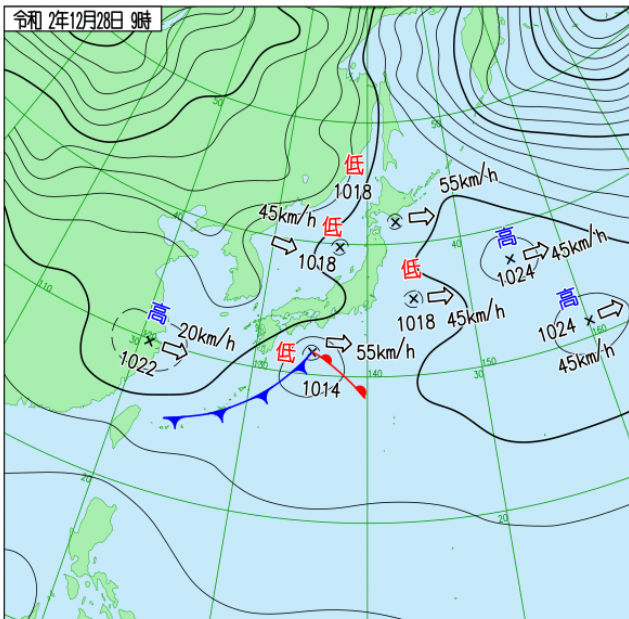
午前中の移動、行者小屋までは曇天であったが、阿弥陀頂上では晴れ。



<第2日>12/27(日)

晴れ

1日中好天。冷えこみは厳しいが視界良好。稜線上の風は10m/s程度。



<第3日>12/28(月)

雪

夜中から数cmの積雪。

下山中も降雪続く。下山後、平地は晴れ。

【会計】(石川)

車代	鈴木	15372円
	福岡	16870円
食料	谷口	4500円
駐車場		6000円
テント宿泊		14000円
合計		56742円
		8106円/人

【SL感想】鈴木

今回7名のパーティーで、幕営地までに脚つりが発生したメンバーにより遅れが生じ、阿弥陀岳アタックのスタート遅れA隊登攀チームは、初の冬山アルパインもあり手感いい下山は日没を迎えてしまった。

2日目は天候に恵まれが、A隊は渋滞に巻き込まれ予定を遅らせた。B隊は新人2人を含むメンバーではあったが問題なく予定通りであった。今回のベースキャンプ型の山行は、縦走型に比べるとリスクが少なく安心感が高いと感じた。

3日目は、下山のみの予定であり気の緩みからか自分は数回転倒してしまい、反省、怪我がなくて良かった。

自分は今回、下見山行を2回もしたが、冬山になると問題が起きることを痛感した。

来年も、参加したい。

【メンバ感想】

二回目の冬山合宿で、今回は昨年と異なる登攀での参加。主稜の渋滞待ちの寒さと、時折降ってくる大きなラックに度肝をぬかれ、とんでもないところに来てしまったとも思った。しかしロープワークを初めとする様々な技術を身につけ有効に活用でき、また頼りになるメンバーのサポートがあって無事登り切る事ができた。これからも積極的に経験を積んでいきたい。(谷口)

初めての雪山アルパインクライミングということで初日は少し緊張しながら登っていましたが、次第に緊張もほぐれて楽しく登ることができました。26/27日ともに天気に恵まれ最高の景色が見れたことが良かったです。来年も合宿参加したいと思います。(小堀)

雪訓に続き人生2回目の雪山登山だったので、楽しみもあり不安もあった。

厳しい箇所もあったが他のメンバーの助けもあり、なんとか登り切ることができ、楽しい雪山登山となった。雪上歩行の技術はまだまだ低いので経験を積んで上達したい。(渡辺)

初めての冬合宿の皆様についていけるか心配でしたが、天候に恵まれ無事に山行を終えることができました。偏にメンバー、サポートの皆様のおかげです。ありがとうございました。何かとご迷惑をお掛けしてしまいましたが、今後も宜しくお願いします。(石川)

1日目の行者までのルートで両足が吊って一時動けなくなり、その後もペースをあげられない状況となりました。A隊一日目の帰りが危険な夕暮れ後になるなど、メンバの皆さまには大変な迷惑をかけてしまい申し訳ありません。在宅勤務が進む中でもメリハリをつけて体を動かす時間を確保したいと思います。ご一緒した皆様、ありがとうございました。(福岡)

【CL総括】小田

本年はコロナの影響で部の活動を抑えていたこともあり、体力的にも入山しやすいハヶ岳を選択しました。行者小屋をベースとして登攀と縦走の2隊を設けて実施しましたが各隊とも参加者のレベルで充実した山行になったと思います。縦走隊は雪山経験の浅いメンバもおり、雪山の難しさや厳しさを味わえたと思います。登攀隊は普段と勝手の異なる中で、雪山での登攀の課題を見出すことができたのではないかと思います。また何よりも両隊とも最高の天気の中で雪山を十分に楽しむことが出来ました。今回の山行の経験を今後の活動に活かしてほしいと思います。今回も非常に楽しい山行でした。同行メンバ、サポート頂いたメンバに感謝。また皆で山に行きましょう。